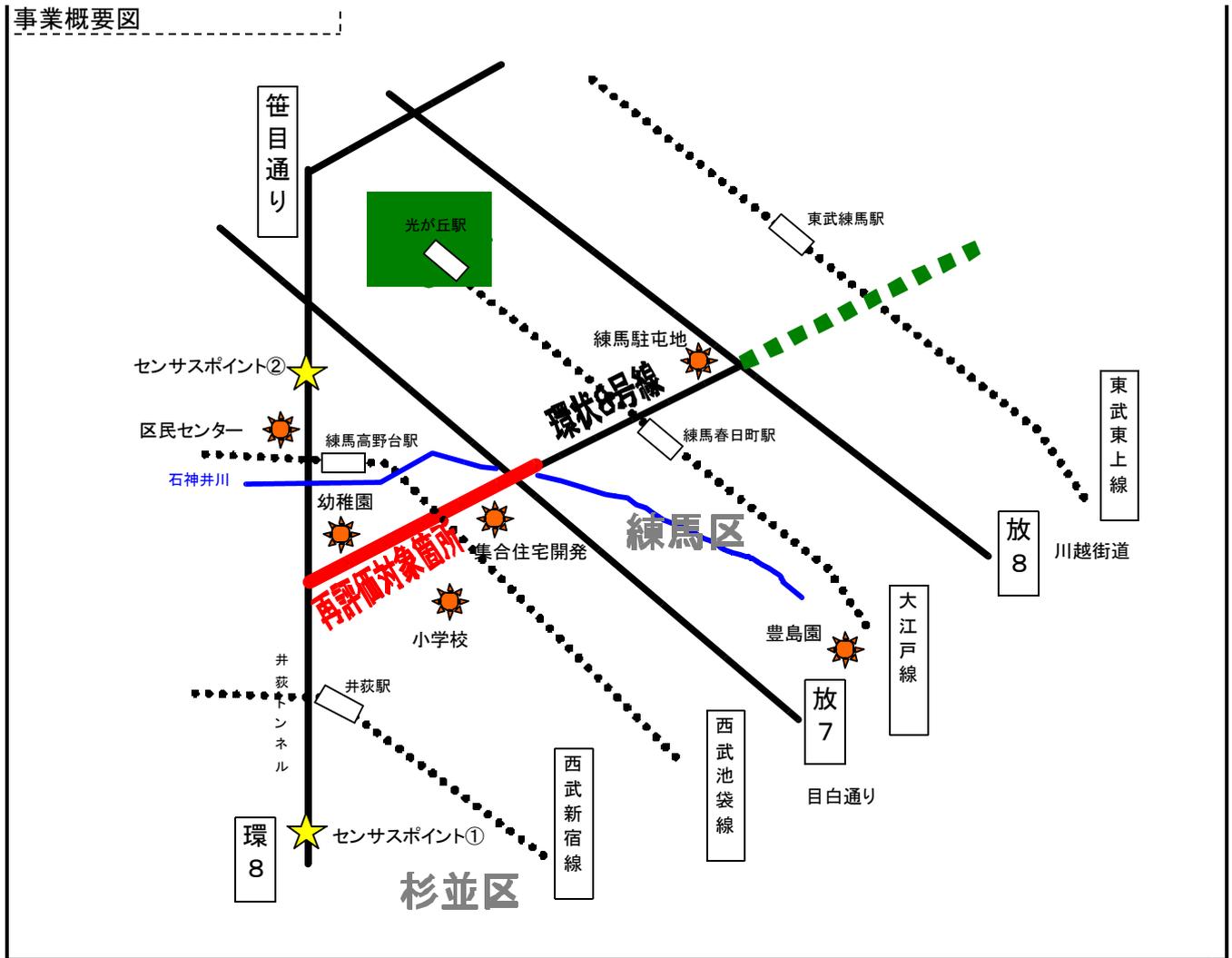


## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課 : \_\_\_\_\_  
 担当課長名 : \_\_\_\_\_

事業名 : 環状第8号線（南田中）		事業 : 街路事業	事業 : 東京都
事業概要 : 区部における最も外側の環状道路である環状第8号線は、都心へ流入する通過交通の分散、周辺都市相互の連絡強化、都市の防災性向上を目的としており、環八通り（笹目通り）から目白通りまでの現道のない区間に道路を整備することで、円滑な交通を確保することができる。 さらに、本線部に平行して側道、歩道を整備することにより、生活に密着した道路と安全で快適な歩行者空間を創出する。			
H8年度事業化	S20年度都市計画決定 (H 年度変更)	H9年度用地着手	H13年度工事着手
全体事業費	755億円	事業進捗率	93%
計画交通量	45,200台/日		
費用対効果 分析結果	B/C : (事業全体)  1.6  (残事業)	総費用 : (残事業)/(事業全体) /791.0億円 事業費 : /776.2億円 維持管理費 : / 14.8億円	総便益 : (残事業)/(事業全体) /1,267.1億円 走行時間短縮便益 : /63.0億円 走行費用減少便益 : /17.3億円 交通事故減少便益 : / 0.3億円
感度分析の結果 : _____			
事業の効果等 : _____ 都心へ流入する通過交通の分散、周辺都市相互の連絡強化、都市の防災性向上を目的としており、環八通り（笹目通り）から目白通りまでの現道のない区間に道路を整備することで、円滑な交通を確保することができる。さらに、本線部に平行して側道、歩道を整備することにより、生活に密着した道路と安全で快適な歩行者空間を創出する。			
関係する地方公共団体等の意見 : _____ 地元の理解・協力の状況 : 事業に対する理解は得られている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 : _____ 区部における都市計画道路の第二次事業化計画（平成3年度～平成15年度） 本計画は、都市機能の確保、都市防災の強化、地域環境の保全、都市空間の確保の視点から、今後10年程の間に優先的に整備をすべき路線を、前期事業予定路線として選定している。 環状8号線については、補134～補172付近、放8～補201の区間を、前期事業予定路線に位置づけ、優先的に整備を進めている。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 : _____ 進捗率 : 用地は100%を取得している。工事については、南田中トンネル（仮称）工事を行っている。 残事業 : 用地取得は平成16年度完了している。引続き、南田中トンネル（仮称）工事、トンネル設備工事、管理棟建築工事等を行い、平成18年春に本線開通の予定である。その後、側道整備工事を行っていく。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 : _____ 一定期間を要した背景 : 平成9年度より用地買収に入ったが、地権者が代替用地等を要望したため用地買収に時間を要することとなった。			
施設の構造や工法の変更等 : _____ これまでにコスト、工期について最適な検討を行っており、事業手法、施設規模等の見直しの可能性はない。			
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由 : _____ 都における都市計画道路の整備率は54%であり、依然として整備が大きく立ち遅れており、慢性的な交通渋滞が都民生活に支障をきたしている。東京構想2000では、環状8号線など骨格幹線道路の整備を重要施策として位置付けており、着実な整備が必要である。 本事業区間の整備は、B/Cの値も1.6と高く、都心へ流入する通過交通を分散し区部の渋滞解消、それに伴う環境負荷の軽減、避難路の確保による地域の防災性の向上および歩道整備による歩行者等の安全確保、が実現することとなり、事業効果は非常に高い。さらに、本事業を中止した場合には、上記の事業効果が発現されないため、これまでの投資が十分に発揮できなくなる。 以上から、対応方針は事業者として「継続」とする。			

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。